

落葉果樹

大苗育成による早期収量確保

佐賀直果樹試験場落葉果樹研究担当係長

稲富

和弘



改植による生産の立て直し

佐賀県内では、ナシを中心に生産量が伸び悩んでいる現状です。紋羽病の発生による生産の低下は少なくなりましたが、植え付け後三〇年以上経過したことや施設栽培の取り組みなどにより、樹勢の低下が顕著になっています。土壌改良等によって維持出来ている園もありますが、改植による生産の立て直しを行っていく必要があります。

【改植方法】

①園内数本の欠株への植え付けの場合（補植）

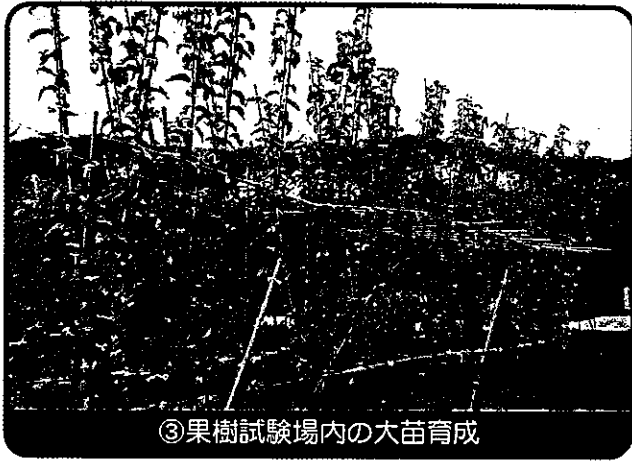
②列で欠株が多い場合（列改植）

③園全体で欠株が多い場合（三年計画での二〜三列改植）

いずれにしても紋羽病跡地などでは一年生苗を植えても育ちににくく、大苗育成による改植が必要となります。

大苗育成方法

これまででは、大苗を育成されている方も多かったので、根域を制限していませんが、掘り上げる際に断根し植え付けるため、順調に生育しない場合が多い状況でした。大苗育成後、根を切らずに植え付けるためにはポットによる育成がもっとも



③果樹試験場内の大苗育成



①トレンチャーで溝を掘る

ポットで苗を育成
することで、根付け時に
根を傷めないで、順調に
初期育成が進みます。



②フラを敷く



④排水良好な場所で育成したポット苗



⑤排水不良な場所で育成したポット苗

適しています。

【ポット大苗育成手順】

(写真1、2、3)

①直径三〇〜三五cmの透水性ポットを準備

②育成用の培土は山土にピートモスを三割混ぜ合わせたもの

③ポット底に排水を良くするためにボラ土を五〜一〇cm敷く

④ポットに苗を植え付ける

⑤植え付けたポットを土に埋める。
(この場合、排水良好な場所は完全に埋めて良いが、排水が悪い場所は一／二程度埋める)

⑥灌水後、ポットに麦わらなどを敷き乾燥を防ぐ

⑦新梢が三〇cm以上伸長後、誘引を行う。

※管理上の注意点

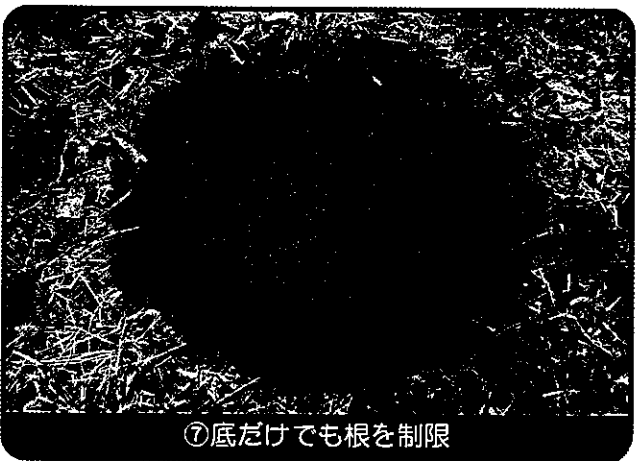
・ポット植え付けは一月〜二月上旬もしくは二月下旬〜三月に行い極寒期は避ける。

・出来るだけ排水良好園に植え付けることと灌水が出来る場所で育成する。(写真4、5)

・施肥は新梢が伸長し始めた四月になつてから行う。肥料は被覆肥料(LPコート七〇日タイプ)もしくは肥効くんを一ポット一〇〇g施用する。



⑥ポットを乗せて開く



⑦底だけでも根を制限



⑧ポットの周りは客土+水



⑨埋め戻す

ナシだけでなく、
ブドウやモモ・スモモでも
この方法で苗の育成が
可能です。

改植方法

改植を行う場所は残根が無いように掘りとり、植え付ける土は園外の山土等を利用します。ポット苗はポットごと植え付け、穴に持ち込み、側面をハサミで切り、埋め込みます（写真6）

【根底制限による生育促進】

植え付けられた苗の根は水を求め、深い所へ伸長しやすくなっています。出来るだけ横伸長を促し、浅い位置に根を誘導するためには植え付け時

に根底を制限することが必要となります。

①補植用の根底制限

直径1m、深さ30cmの穴を掘り、透水性のシートを敷き、その上に植え付ける。（写真7）

②列改植での根底制限

幅1.5〜2m、深さ20〜30cm掘り、透水性シートを敷き、その上に植え付ける。（写真8、9）



ここではナシを中心に述べましたが、モモ、スモモ、ブドウなどについても同様な方法で苗の育成は出来ます。

また、ブドウでは根域制限方法は確立されていますが、モモなど品質が上がりにくい樹種でも根域制限することによって品質の向上や低樹高化を図ることが出来ます。

実際行う場合は果樹技術員に相談してください。

